

米倉教公の週間為替市場見通し

2/20 日週号

ドル/円予想レンジ 111.50 - 115.30 円

『米 FRB 要人発言と FOMC 議事録に注目！』

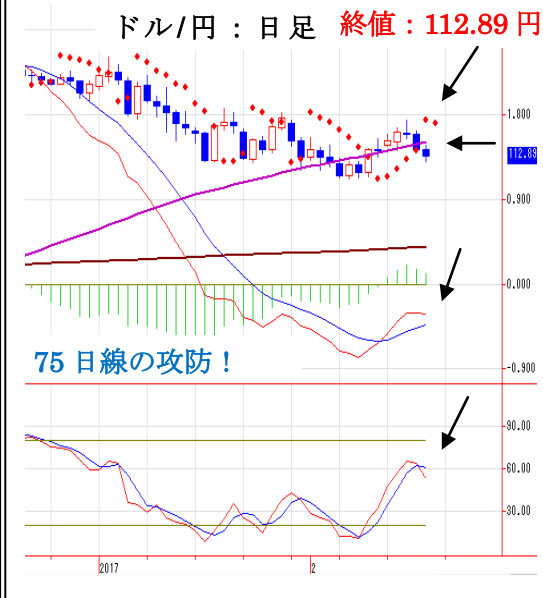
■今週の市場動向：ドルは週末にかけて上値重い展開！

前週のドル/円の週足では、上影陰線となりやや弱い展開となった。週明けは、日米首脳会談が無難に終わったことでドル買いが先行し、114.16 円まで上昇したが、その後は伸び悩んだ。14 日はプリン米大統領補佐官の人が伝わり、リスクオフの円買いに傾いた。ただ、イエレン米 FRB 議長が、議会証言で利上げについてタカ派的な発言があったことから、114.50 円まで上げた。15 日は、米 1 月小売売上高や 1 月消費者物価指数が好結果となったことを受け、114.95 円まで上げた。ただ、115.00 円に設定された大規模なオプションに絡んだ売りに上値が抑えられると失速した。16 日は、日本株が下落したことや、米長期金利が低下したため、113.05 円まで失速した。17 日も欧州時間に入って、日経平均先物の下落や米長期金利の低下を嫌気してドル売りが加速し、一時 112.58 円まで下げ幅を広げた。

■来週の注目点：米 FRB 要人発言と FOMC 議事録に注目！

イエレン米 FRB 議長やその他の投票権のある FOMC メンバーは追加利上げに前向きな姿勢を維持しており、現時点では 6 月、9 月、12 月の年内 3 回利上げが市場のコンセンサスとなっている。来週の注目点は、FRB 要人による発言や 22 日公表される FOMC 議事録となる。米国の経済指標は軒並み大きく改善していることや、米国株が連日の過去最高値更新している。そのため、コンセンサスより早い『3 月利上げ』の地ならし強化が焦点となる。3 月の利上げの可能性や、その後の利上げ継続スタンスが示されるなら、ドルの下落余地縮小とした支え要因になりやすい。米国株高にはかなりの過熱感もあることから、『山高ければ谷深し』となりやすく、FRB も早目に調整を促すことも十分あり得る。ただ、米国株が下落調整局面となると、リスク回避の円買いにつながる可能性も高い。

ドル/円の上値は 75 日線 113.57 円、節目の 114.00 円、16 日高値 114.32 円、15 日高値 114.95 円が上値抵抗。下値は 7-8 日高値 112.57 円近辺、2 月 6-9 日安値 111.57-69 円の下値支持。週末は 112.50-60 円近辺で実需買いが支え。



★今週の気になる出来事

115.00 円に設定されていた最大級のドルコールオプションの存在が、どんなに強い米経済指標が出ようと、いくら米長期金利が上昇しようとも、開けることが出来ない重い蓋となっていた。しかし、週末の NY カット（日本時間 24 時）に期日を迎え消滅した。そのため、20 日からは重い蓋は外されたことになる。ただ、気がつけば、テクニカル的には下落基調となっており、回復にはドル買いの材料が必要となる状況。しかし、週明けはプレジデンスデーの祝日で NY 市場の株式・債券市場は休場となる。

■テクニカル的な見解：テクニカル的には下落調整局面に！

シカゴ IMM 投機筋の 2 月 14 日付け対米ドルの差し引き持ち高は、円は前週の▲55,060 から▲51,284 へと売り持ちは前週から減少した。持ち高の減少は 7 週連続となり年初来最小となった。パラボリック（パラメータ：0.08、0.3）では 16 日に買いから売りに転換した。20 日の SAR は 114.76 円までの上昇で買い転換となる。MACD（パラメータ：12、26、9）では、MACD は買い継続しているが上昇の勢いは鈍化。ストキャスティクス・スロー（パラメータ：14、3、3、20、80）では、%K と %D がデットクロスした。75 日線（紫線）を下抜けしたことで上値の重い展開に。ただ、200 日線の 107.58 円の上に位置していることから、上昇基調は維持している。ロウソク足は上値・下値切り下げとなっており、下落調整局面にある。75 日線の 113.70 円を直ぐに回復できるかが焦点。出来なければ 7 日の安値 111.57 円近辺までの下落も。

本レポートについての注意事項は巻末をご覧ください。必ずご確認ください。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。